



…指令部のとある日の朝

416の声

「指揮官。そろそろ起きないと朝の会議に間に合いませんよ。」

…ぼんやりした意識の中、副官の416の声が聞こえてくる。
昨日少し遅くまで作戦報告書を書いていて、そのままソファで寝落ちしたのを思い出した。
ちょっと気だるくて、なかなか体を起こす気力が湧いてこない。

指揮官

「も、もうちょっとだけ寝かせてくれない？」

我ながらだらしのない姿に、416がため息をつく。

416の声

「だからちゃんとベッドで寝てくださいといつも言っているのに…」

指揮官

「ごめん。次から気を付けるよ。だから今日は本当にあと少しだけ…」

返事の代わりに、再び416の大きなため息が聞こえてくる。
実際のところ、416のことなのでこれでも限界の時間まで寝かせてくれていたのだろう。
声をかけてきたということは、本当に遅刻ギリギリということに違いない。

416の声

「まったく…お忙しいのはわかりますが、指揮官がそんなことでは他の人形たちに示しがつきません。」

416の声

「さあ、自業自得なんですから、素直に起きてください！このままでは本当に遅刻しますよ？

……………それとも…少し刺激が強い目覚ましが必要ですか？」

416の声のトーンが下がり、足音がこちらに近づいてくる。
少し刺激の強い目覚まし…？うるさい音を立てたり、水をかけたりでもするのだろうか。
いずれにしても穏やかではない。

指揮官

「416…何をするつもり？」

416の声

「さて、なんでしょうね」

少々不穏な気配を漂わせ、416が返答する。足音が止まった。気配から416がすぐ脇に立っているのがわかる。これはそろそろ潮時かな…本格的に怒られる前に、流石に観念して体を起こそう。
…その時だった。

クチャ…ピチャ…

突然の刺激に、思わず腰を浮かせてしまった。

指揮官

「うっ!？」

思わず声が漏れる。男性器にぬるぬるしたものが絡みつき、刺激を与えてきている。
予想外の事態に思考が追いつかないが、こちらのそんな状況などお構いなしに、そのぬるぬるしたものは
竿、かり、亀頭と絡みつき、丹念に擦りあげてくる。

こちらの様子を伺い、より反応が良いところを狙うように的確にせめたてられる。
ただでさえ朝立ちして敏感になっている亀頭に抉るような一際強い刺激を受け、思わず呻く。
もうすっかり寝ていられるような状態では無くなっていた。



指揮官

「416…一体何を…」



目を開けると、416が男根を銜え込んでいた。
ぬるぬるしたものの正体は416の舌で、ぴちゃぴちゃと卑猥な音を立てながら陰茎を丹念に舐り、
快感を送り込み続けている。



416
「ようやく目が覚めましたか、指揮官」



指揮官
「416、わかった。起きるよ。だからもう止めてくれ。本当に遅刻しそうなんだろう？」



416

「ここまでやったのなら、最後までやりましょう。指揮官も苦しいでしょう？時間は大丈夫です。ここまでで指揮官の心拍数などをモニタリングして、最適なポイントは確認しましたから。すぐ終わるはずです。」



指揮官
「最適なポイントって……うあっ!!？」



カリの裏側を抉るように刺激され、思わずのけぞる。先ほどの少しの間だけで、すっかり弱点を暴かれてしまったらしい。唾液でねっとりとしつつもざらついた舌をこすりつけ、否応無しに性感を高められ、吐精を促される。確かに、こんなものをそう長く耐えらそうもない。



指揮官
「416…それ、やば…い…！」



416

「ビクビクってして、パンパンに膨れてきました。気持ち良いですか？うれしいです。遠慮せず、このままたくさん出しちゃって良いんですよ。」



416はとどめとばかりに亀頭に舌を絡ませてきた。先ほどまで少し手薄にしてからの不意打ちで、敏感な先端を舐め回される度に、精巣が沸騰する。



指揮官

「くああ!? 416、そんな先端ばかり…せめられたら…!!」



416

「れろんっ、べろべろっ。 ふふ、指揮官が射精寸前に先端をせめられるのが好きというデータは取得済みです。
快感に耐えてる顔、可愛いですよ♡ 時間通り起きれなかったお仕置きです♡



416がピッチを速める。唾液をたっぷりと滴らせ、絶妙な舌技で舐られる。
男根はすっかり蕩けきり、腰がびくびくと浮いてしまう。
性感は頂点に達し、もはや我慢の限界だった。



指揮官
「で、出る! くっ うあああーっ!!!」



ポビュッ! ビュグビュグッ ドブドブ...



煮えたぎった精が、勢いよく放出される。
ビクビクと脈打ちながら、尿道に残った最後の白濁液まで、どくどくと吐き出し続ける。
そのあまりの快感に頭が真っ白になり、しばらくの間放心していた。



416
「うふふふ 沢山出ましたね…」



416

「さあ、今日のお仕事に行きますよ。次、約束を守れなかったらまたお仕置きしますから。
覚悟してくださいね、指揮官♥」



416が少し意地悪げに微笑む。
おいおい…寝坊する度にこんなことをされていたら、体がもたないのでは…
…体力……つけないとな…